

問1 先生の勤務先では、両親などからの子どもに関する相談では、どのような内容の相談がありますか。また、相談内容ごとに、1週間全体でどの程度の時間、それらの相談に時間を費やされていますか。

相談内容については、①病気に関する相談、②治療法に関する相談、③子どもの発育に関する相談、④子育て全般に関する相談ともに、8割前後で「相談あり」となっており、子どもの発育や子育て全般に関する相談も、病気や治療法と同様に相談がされていることがうかがえる。

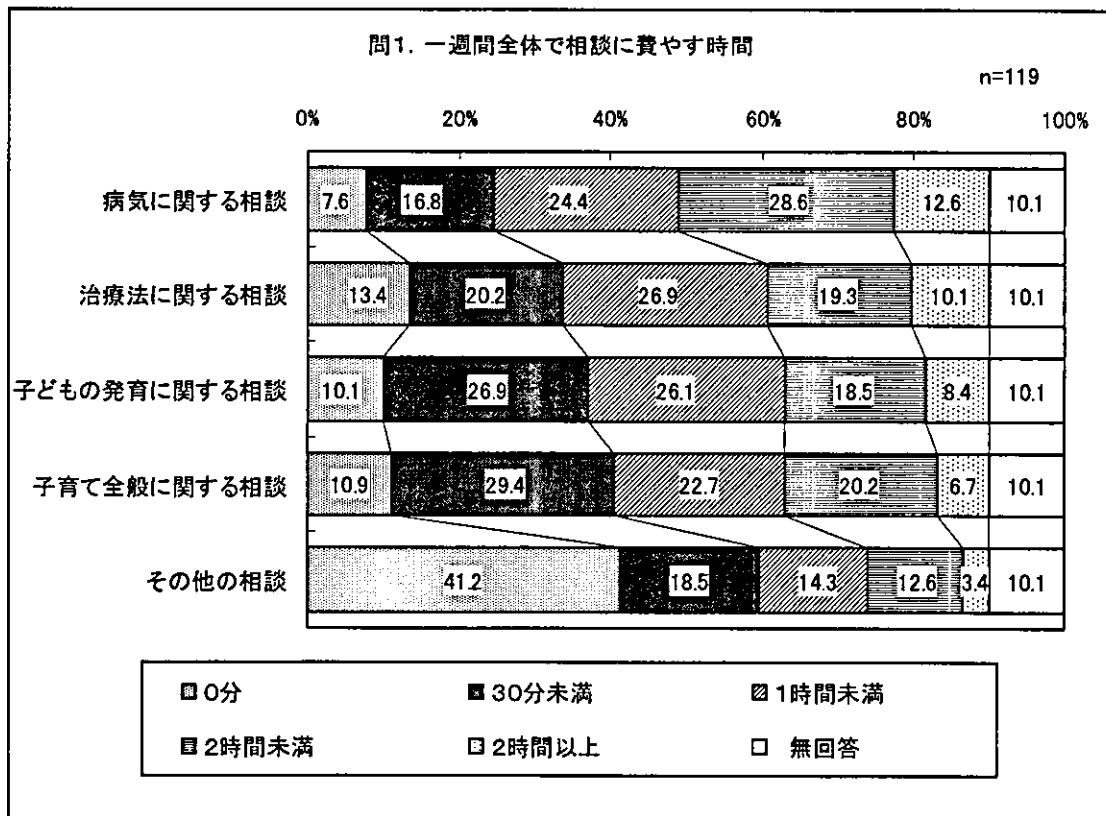
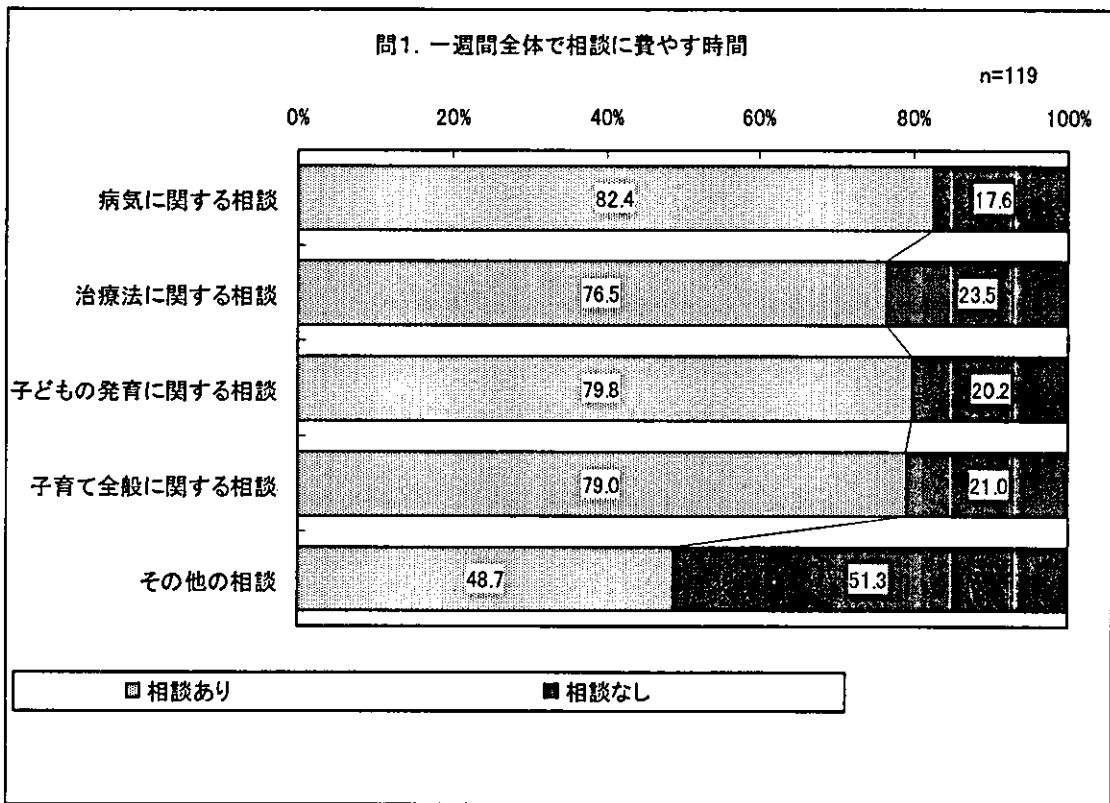
また、それぞれの相談への対応時間については、「30分未満」、「1時間未満」「2時間未満」という回答が大半を占めている。

①病気に関する相談では「相談あり」という回答が82.4%で、1週間で相談に費やす時間が平均63.3分で最も高くなっている。そのうち、「2時間未満」という回答が28.6%と最も高く、次に「1時間未満」が24.4%、続いて「30分未満」16.8%などと続いている。

②治療法に関する相談では「相談あり」という回答が76.5%で、「1時間未満」という回答が26.9%で最も高く、次に「30分未満」が20.2%、続いて「2時間未満」が19.3%となっている。

③子どもの発育に関する相談では「相談あり」という回答が79.8%、「30分未満」という回答が26.9%、「1時間未満」が26.1%で、「2時間未満」が18.5%になっている。

④子育て全般に関する相談では79.0%で、「相談あり」という回答が79.0%で、「30分未満」という回答が29.4%、「1時間未満」が22.7%、「2時間未満」が20.2%である。



問2 問1の相談は、どのように受ける場合が多いですか。

相談を受ける方法としては、診療の際に受ける場合が最も多く、治療法に関しては電話でも相談するケースがやや高い割合を示している。

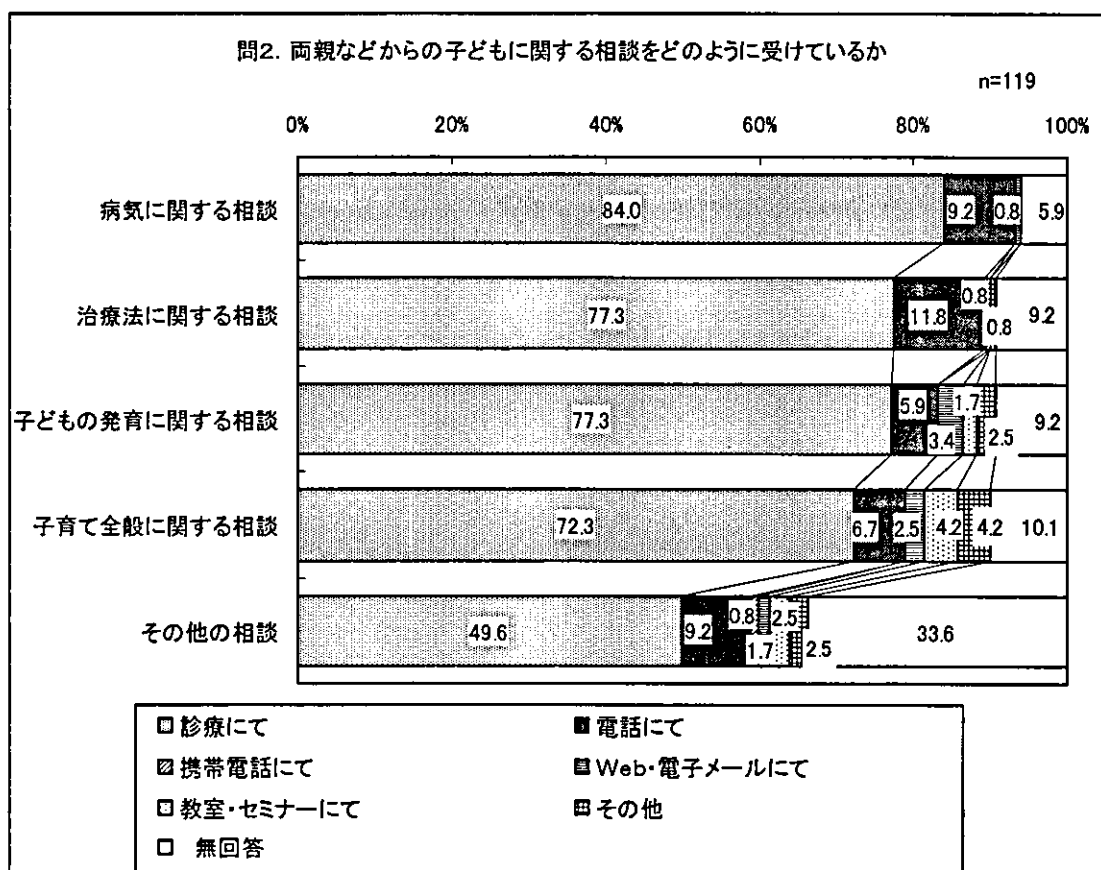
①病気に関する相談では、「診療にて」という回答が84.0%と最も高く、次に「電話にて」が9.2%となっている。

②治療法に関する相談では、「診療にて」という回答が77.3%と最も高く、次に「電話にて」が11.8%となっている。

③子どもの発育に関する相談は「診療にて」という回答が77.3%と最も高く、次に「電話にて」が5.9%となっている。

④子育てに関する相談は「診療にて」という回答が72.3%と最も高く、次に「電話にて」という回答が6.7%となっている。

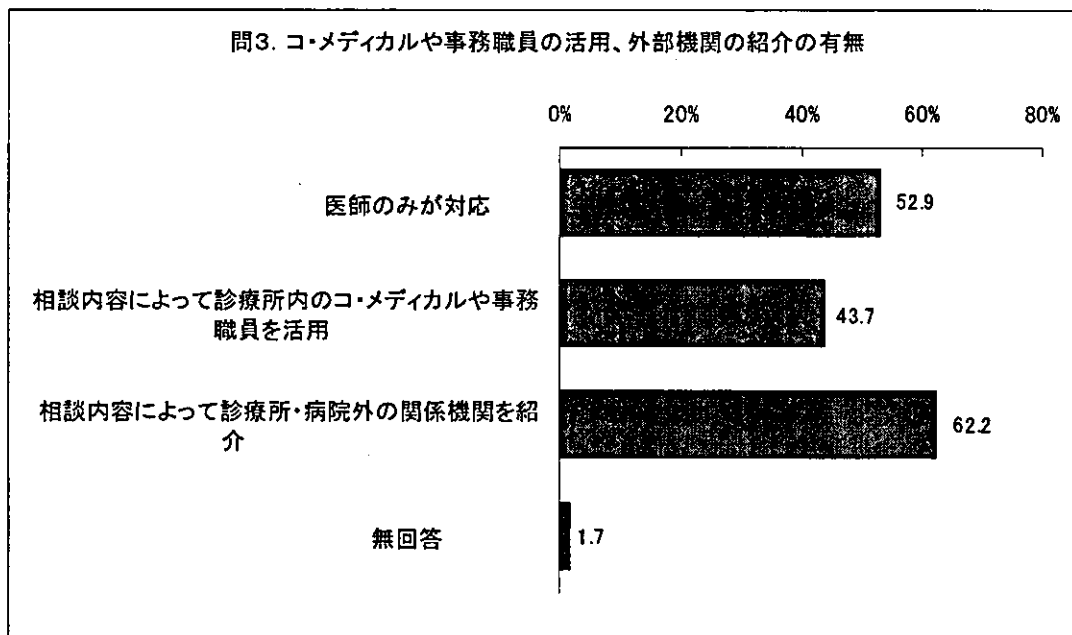
「携帯電話にて」「Web・電子メールにて」「教室・セミナーにて」という回答は全て5%以内になっている。



問3 問2のように相談を受けられる場合に、先生ご自身以外に、診療所・病院内のコ・メディカルや事務職員、診療所・病院外の機関などを活用・紹介されて対応する場合がありますか。

相談への対応体制については、医師のみで対応するのが半数程度であり、必要に応じて、コ・メディカルを活用したり、施設外の関連機関への紹介を行っている場合が6割を占めていた。

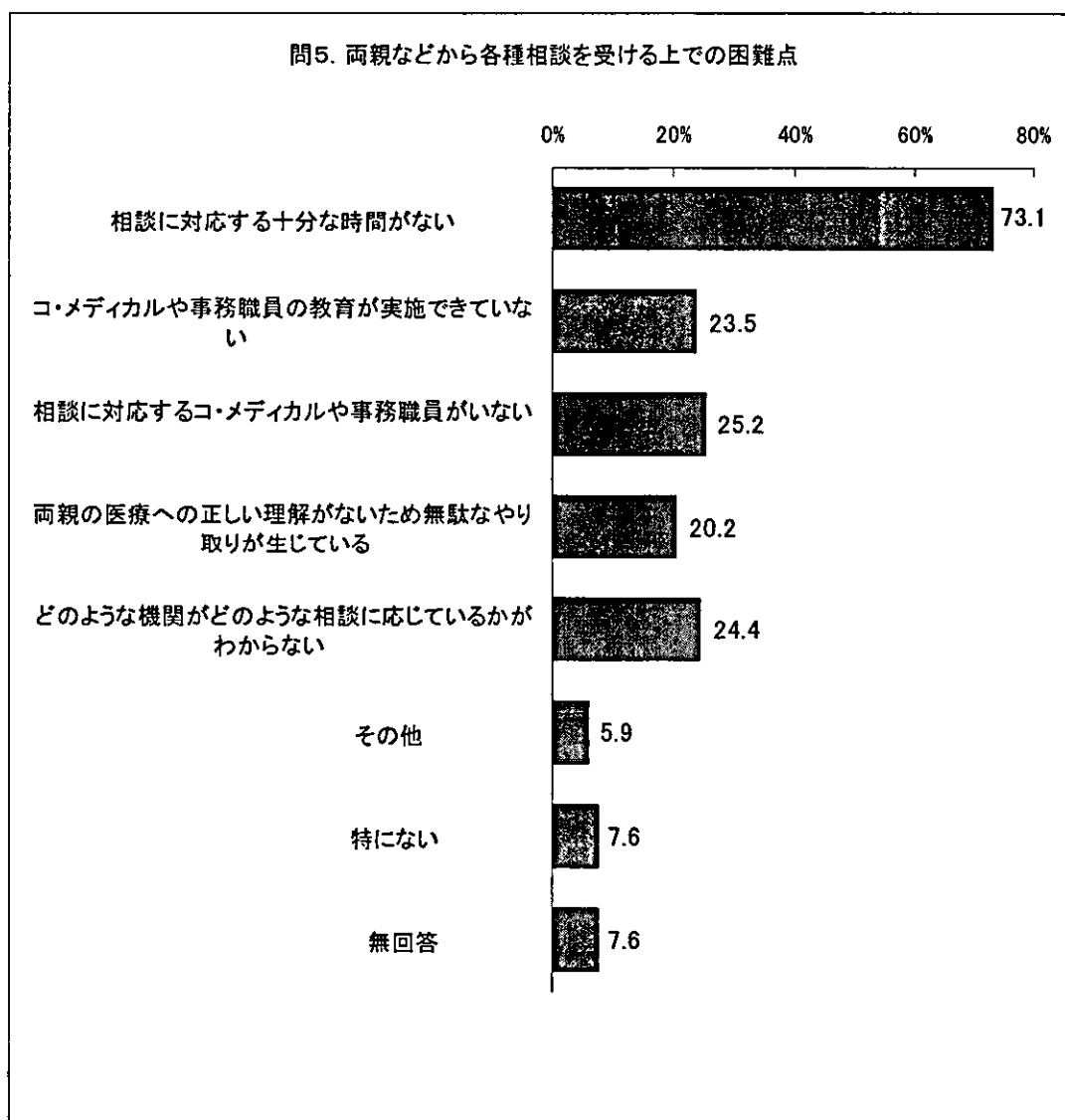
「医師のみが対応している」という回答は52.9%、「相談内容によって診療所内のコ・メディカルや事務職員を活用している」は43.7%、「相談内容によって診療所・病院外の関係機関を紹介している」は62.2%となっている。



問5 両親などから各種相談を受ける上で、どのような困難点がありますか。

相談を受ける上での困難点としては、「相談に対応する十分な時間がない」という回答が全体の73.1%を占め、最も高い困難点となっている。

続いて「相談に対応するコ・メディカルや事務職員がいない」という回答が25.2%、「どのような機関がどのような相談に応じているかがわからない」が24.4%、「コ・メディカルや事務職員の教育が実施できていない」が23.5%、「ご両親の医療に対する正しい理解がないために無駄なやり取りが生じている」が20.2%と続いている。



問6 先生が日々の業務の中で、ストレスを感じられる順番に番号をご記入ください。

診療に関する8項目の業務の中で、ストレスを感じる割合が高い順番については、1番目と回答した割合が最も高かったのは「診療所・病院の経営」、次に1・2番目と回答した割合が最も高かったのは「診療に付帯する業務」、次いで2番目と回答した割合が最も高かったのは「職員の教育」、4番目は「診療に付帯する打ち合わせ業務」、6番目は「診療以外の各種相談への対応」、7番目は「診療」、「対外的活動」となっている。

「診療」では、8項目中でストレスは7番目という回答が24.4%で最も高く、次に1番目が18.5%である。

「診療以外の各種相談への対応」では、6番目という回答が16.0%で最も高く、5番目が13.4%、4番目が12.6%と続いていて、1番目という回答は6.7%である。

「診療に付帯する業務」では、1番目と2番目という回答がそれぞれ16.0%で最も高く、3番目と5番目という回答は15.1%となっている。

「診療に付帯する打ち合わせ業務」では、4番目が17.6%というのが最も高く、次に5番目と6番目が12.6%で、3番目が11.8%と続いていて、1番目という回答は1.7%となっている。

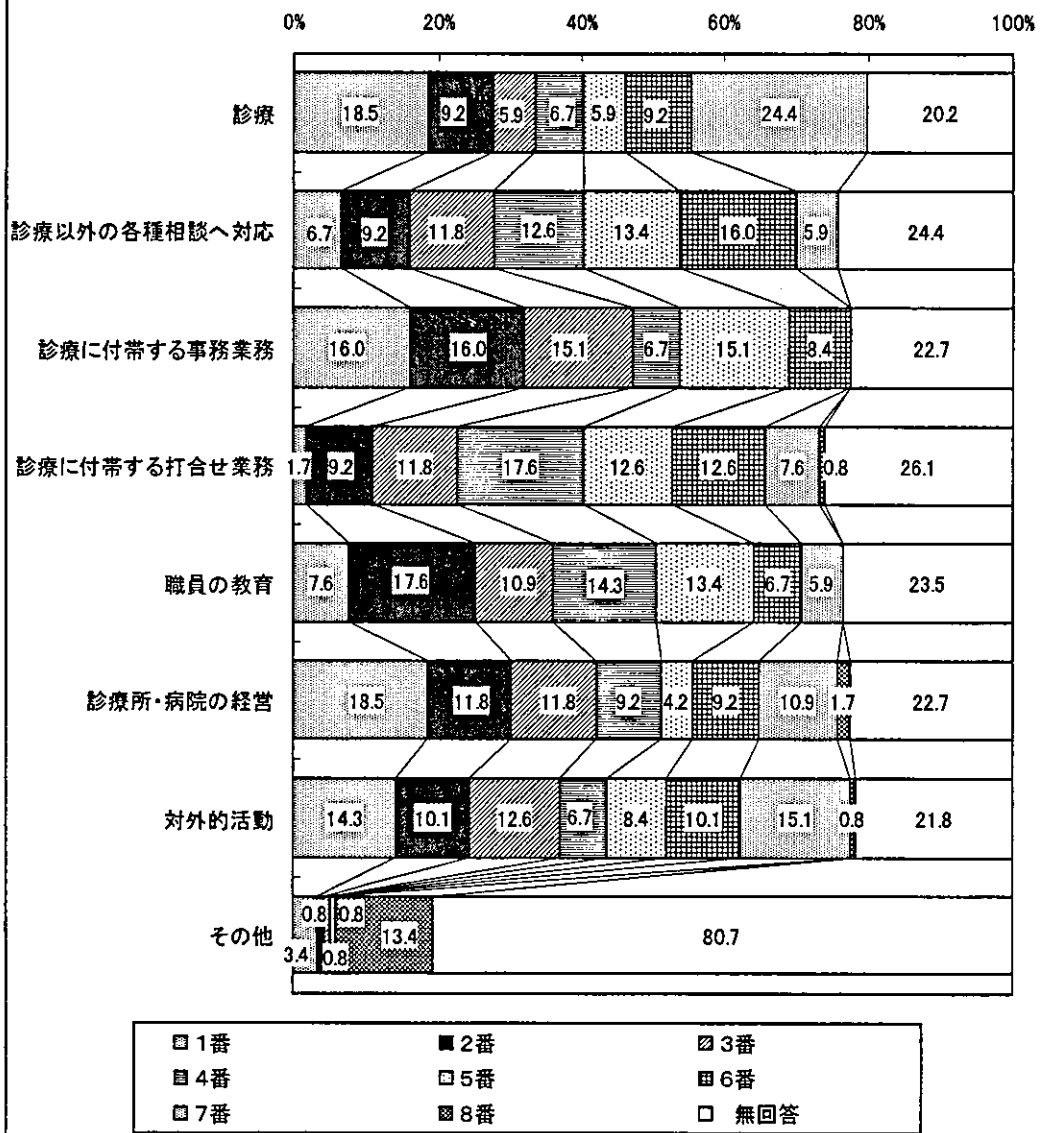
「職員の教育」では、2番目という回答が17.6%という回答が最も高く、次に4番目が14.3%で、5番目が13.4%続き、1番目という回答は7.6%である。

「診療所・病院の経営」では、1番目が18.5%で最も高く、次に2番目と3番目が11.8%である。

「対外的活動」では、7番目という回答が15.1%でも最も高く、次に1番目が14.3%である。

問6. 日々の業務の中でストレスを感じる順番

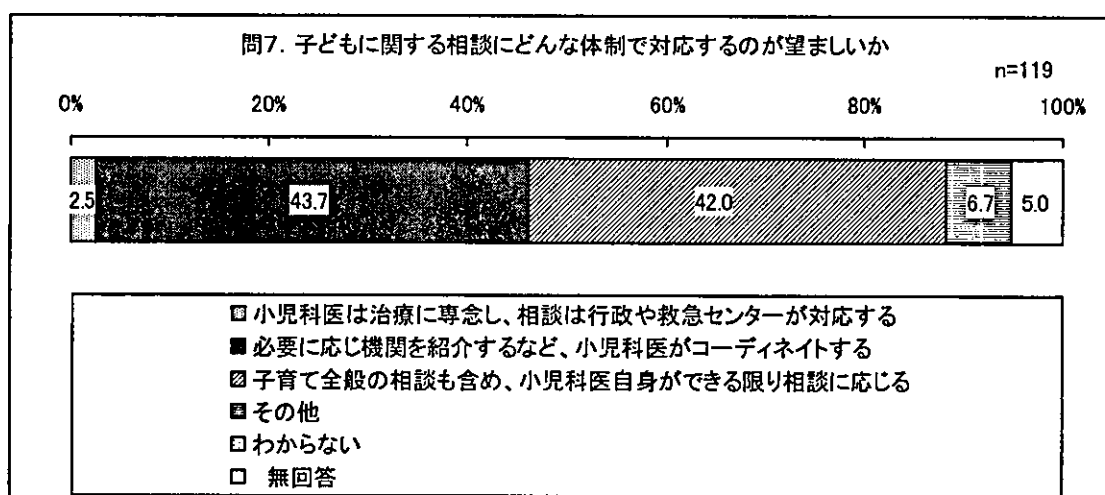
n=119



問7 最後に、病気や具合が悪いときの対処法、子育て全般を含む子どもに関する各種相談については、今後、どのような体制で対応することが望ましいと思われますか。

「必要に応じて行政・NPO など関連機関を紹介、活用するなど、小児科医がコーディネートして各種相談に対応していく」という回答が 43.7%、「子育て全般の相談を含め、小児科医自身ができる限り相談に応じていく」が 42.0%で、全体の 80%以上を占めている。

一方、「小児科医は治療業務に専念すべきであり、各種相談は行政や救急センターなどで対応していく」という回答は 2.6%となっていた。



研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
古井祐司	「企業（職域）における子育て支援-企業健保の視点から-」	保健の科学	第46巻第6号	407-410	2004年6月